



p4cみやぎ 10月研修会報告

オンラインによる p4c みやぎ 10月研修会

10月14日(木)、オンラインによるp4cみやぎ10月研修会を開催いたしました。

研修Ⅰでは、埼玉県和光市立第五小学校教諭(麗澤大学大学院)の古見豪基先生に『『道徳科の授業とp4cとの関連を図った学習システム』の構築をめざして～子どもの主体性の育成を通して～』というテーマで、話題提供を行っていただきました。また、研修Ⅱでは、3グループに分かれて、教科・領域におけるp4cの活用の仕方について、対話を行いました。今回は、37名の方々に参加をいただきました。

【研修Ⅰ】

テーマ : 「道徳の実践事例から学ぶ」

話題提供 : 『『道徳科の授業とp4cとの関連を図った学習システム』の構築をめざして～子どもの主体性の育成を通して～』

講師 : 埼玉県和光市立第五小学校
教諭 古見豪基先生

(麗澤大学大学院学校教育科道徳専攻)

〈研究の仮説〉…大主題を基に、道徳教育を通じたカリキュラムマネジメントの中で、p4cを行い、多元的思考を育んでいくことで、子供たちの主体的な学びが深まるであろう。

〈p4cの実践〉…道徳、総合的な学習の時間、特活、朝の対話をきっかけに、実践として『『自由』を様々な立場や考え方からどういうものがよいか考えよう』を行った。

〈p4cと道徳科の関連の考察〉

個人の道徳性は、社会の中で育成される。自己の成長も社会の中で育成される。集団の中での評価を行うことで自己の多様性が高まり、個人の納得解も広がり、深まる可能性があると考えられる。

〈考察：安全性について〉

自分の意見を否定されない環境をもとに対話



をしていくことで、安心感や自己肯定感が高まり、よりよい人間関係が構築され、安心できる居場所づくりになると考えられる。

〈考察：主体的な問い作りについて〉

p4cで子供たちが中心になって対話を進行していくことで、子供の発言から思考の多面性を多く感じた。また、p4cは「テーマを発見する力」を育成すると考えられる。さらに、「正解のない問い」を子供たちで追求、探究していくことで、主体的に学習する子供が育つと考えられる。

〈課題〉

○子供たちの自己評価が、自己形成にどのように結びついているか。

○大主題を中心としたカリキュラムマネジメントの道徳学習の効果はどうか。

【研修Ⅱ】教科・領域におけるp4cの活用の仕方について&情報共有

[グループA]

○集会の縦割り班で、zoomによるp4cを行った。子供たち同士が仲良くなるきっかけとなった。

○ワイキキ小では、算数や理科などで、身近な、不思議なものを目の前にして探究させている。

[グループB]

○小1では問いづくりの段階として、1対1で質問ができるようになることが、全体への質問につながる。

○幼児でも、p4cの形にあてはめると考えたり、コミュニケーションができたりするようになる。

○不登校生徒とp4cを行っており、生徒の変容が見られてきた。

[グループC]

○社会科のまちづくりの授業の中で、p4cを取り入れてみた。自分が「首長になった場合」ということで考えを出させた。

○図工の授業で取り入れている。鑑賞の授業で対話をして発想を広げ、表現に移ると、子供たちは集中して取り組む。

HP (<https://p4c-miyagi.com/>)

Mail (p4c@adm.miyakyo-u.ac.jp)